

岐阜県県政モニター 令和7年度 第3回アンケート結果



岐阜県広報課管理広聴係



第3回県政モニターアンケート調査結果

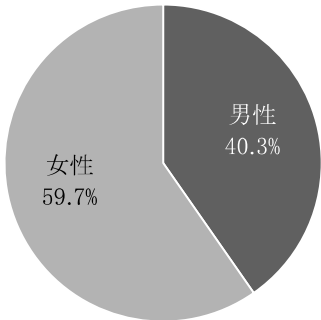
1 調査対象等

調査対象: 県政モニター926人(郵送モニター:113人 インターネットモニター:813人)
調査方法: 郵送及びインターネット
調査期間: 令和7年10月3日～11月3日
回収結果: 737人(回収率79.6%)
構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。
そのため、合計が100%にならない場合があります。

2 回答者属性

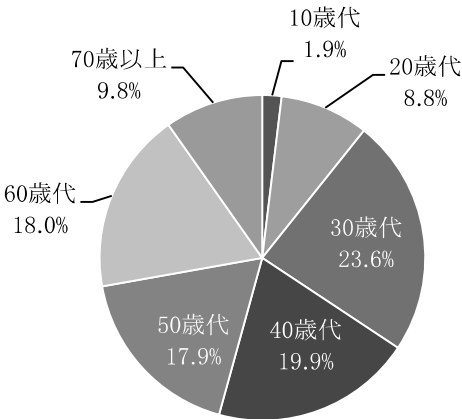
(1)性別

	人数	割合
男性	297	40.3%
女性	440	59.7%
計	737	100.0%



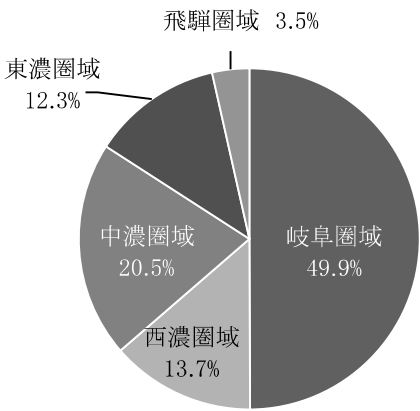
(2)年代別

	人数	割合
10歳代	14	1.9%
20歳代	65	8.8%
30歳代	174	23.6%
40歳代	147	19.9%
50歳代	132	17.9%
60歳代	133	18.0%
70歳以上	72	9.8%
計	737	100.0%



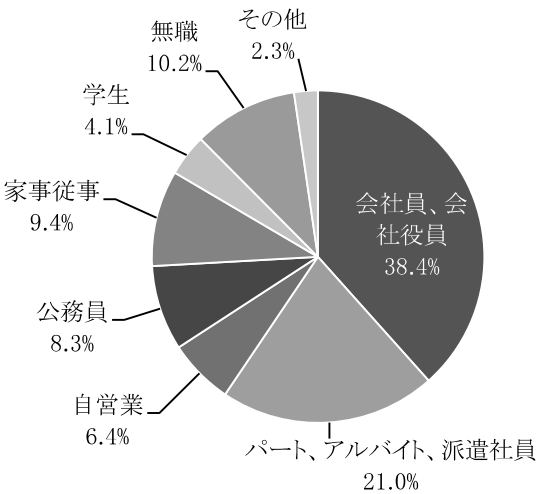
(3)居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	368	49.9%
西濃圏域	101	13.7%
中濃圏域	151	20.5%
東濃圏域	91	12.3%
飛騨圏域	26	3.5%
計	737	100.0%



(4)職業別

	人数	割合
会社員、会社役員	283	38.4%
パート、アルバイト、派遣社員	155	21.0%
自営業	47	6.4%
公務員	61	8.3%
家事従事	69	9.4%
学生	30	4.1%
無職	75	10.2%
その他	17	2.3%
計	737	100%



「デジタル化」、「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」に関するアンケート調査結果

デジタル戦略推進課

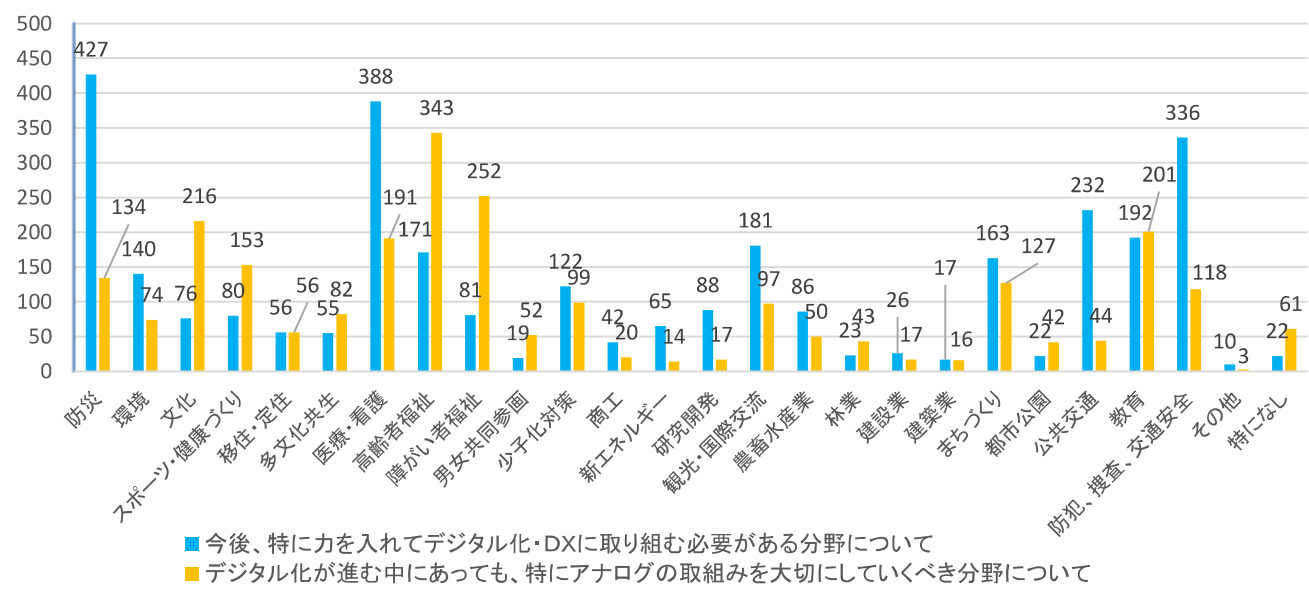
1 調査目的

岐阜県では、令和4年3月に策定した「岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画」に基づき、あらゆる分野でデジタル化・DXの取組みを進め、皆様の生活を「豊かに」「安心に」「便利に」していくことで、「誰一人取り残されないデジタル社会」を目指していくこととしています。そこで、今後の県政運営の参考にするため、この取組みに対する皆さんの率直なご意見やご感想を伺いました。

2 調査結果

- 問1 今後、特に力を入れてデジタル化・DXに取り組む必要がある分野は何だと思いますか。次の中からあてはまるものを5つまであげてください。
- 問2 一方で、「デジタル化・DXに向かないこともある」、「デジタルとアナログのバランスが大事」、あるいは「デジタル一辺倒では、格差やストレスを生む」といった意見もあります。デジタル化・DXが進む中であっても、特にアナログの取組みを大切にしていけるべき分野は何だと思いますか。次の中からあてはまるものを5つまであげてください。

(複数回答) 回答者 737 人					
問1	回答数	割合	問2	回答数	割合
防災	427	13.7%	防災	134	5.3%
環境	140	4.5%	環境	74	2.9%
文化	76	2.4%	文化	216	8.6%
スポーツ・健康づくり	80	2.6%	スポーツ・健康づくり	153	6.1%
移住・定住	56	1.8%	移住・定住	56	2.2%
多文化共生	55	1.8%	多文化共生	82	3.3%
医療・看護	388	12.4%	医療・看護	191	7.6%
高齢者福祉	171	5.5%	高齢者福祉	343	13.6%
障がい者福祉	81	2.6%	障がい者福祉	252	10.0%
男女共同参画	19	0.6%	男女共同参画	52	2.1%
少子化対策	122	3.9%	少子化対策	99	3.9%
商工	42	1.3%	商工	20	0.8%
新エネルギー	65	2.1%	新エネルギー	14	0.6%
研究開発	88	2.8%	研究開発	17	0.7%
観光・国際交流	181	5.8%	観光・国際交流	97	3.8%
農畜水産業	86	2.8%	農畜水産業	50	2.0%
林業	23	0.7%	林業	43	1.7%
建設業	26	0.8%	建設業	17	0.7%
建築業	17	0.5%	建築業	16	0.6%
まちづくり	163	5.2%	まちづくり	127	5.0%
都市公園	22	0.7%	都市公園	42	1.7%
公共交通	232	7.4%	公共交通	44	1.7%
教育	192	6.2%	教育	201	8.0%
防犯、捜査、交通安全	336	10.8%	防犯、捜査、交通安全	118	4.7%
その他	10	0.3%	その他	3	0.1%
特になし	22	0.7%	特になし	61	2.4%
無回答	1	0.0%	無回答	1	0.0%
計 3,121			計 2,523		



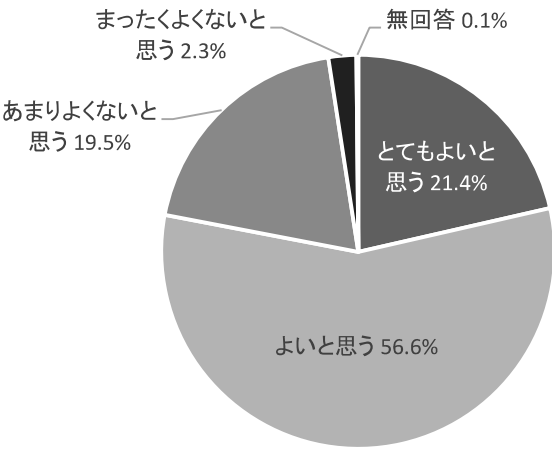
問 3 「AI(人工知能)」は、膨大なデータをもとに人の代わりに判断や作業を行う技術です。近年では、人間が作成するような自然な文章や画像を生成する「生成AI」も広く使われるようになり、私生活やビジネスなど様々な場面で活用が進んでいます。

一方で、とりわけ生成AIについては、出力結果に偽情報・誤情報が含まれるリスクや、著作権侵害のリスクも指摘されています。

AI(生成AIを含む)が県の行政サービス(例:問合せ対応、文書作成、観光案内など)に活用されることについて、どう思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

回答者 737 人

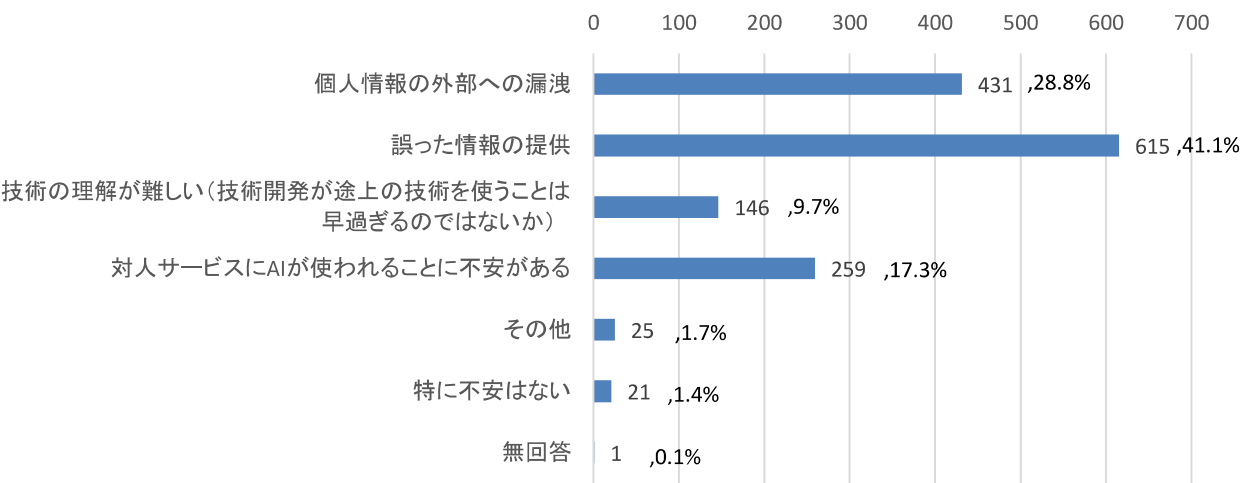
問3	人数	割合
とてもよいと思う	158	21.4%
よいと思う	417	56.6%
あまりよくないと思う	144	19.5%
まったくよくないと思う	17	2.3%
無回答	1	0.1%
計	737	



問 4 上記によるAI(生成AIを含む)が活用されるにあたって、どのような点に不安を感じますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

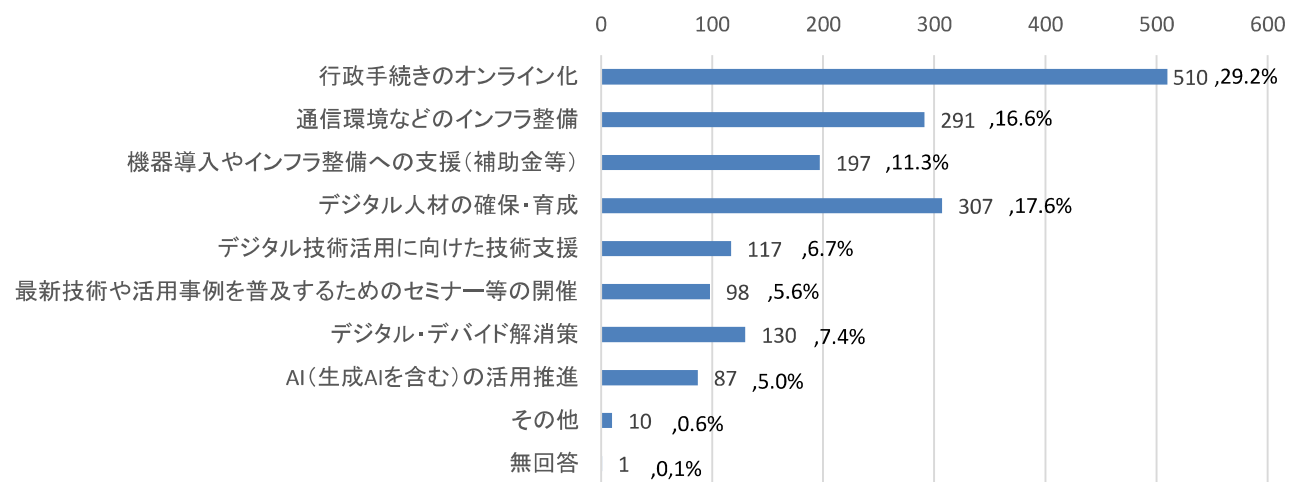
(複数回答) 回答者 737 人

問4	回答数	割合
個人情報の外部への漏洩	431	28.8%
誤った情報の提供	615	41.1%
技術の理解が難しい(技術開発が途上の技術を使うことは早過ぎるのではないか)	146	9.7%
対人サービスにAIが使われることに不安がある	259	17.3%
その他	25	1.7%
特に不安はない	21	1.4%
無回答	1	0.1%
計	1,498	



問 5 今後、県が取り組むべきデジタル政策は何だと思えますか。次の中からあてはまるものを3つまであげてください。

(複数回答)		回答者	737 人
問5	回答数	割合	
行政手続きのオンライン化	510	29.2%	
通信環境などのインフラ整備	291	16.6%	
機器導入やインフラ整備への支援(補助金等)	197	11.3%	
デジタル人材の確保・育成	307	17.6%	
デジタル技術活用に向けた技術支援	117	6.7%	
最新技術や活用事例を普及するためのセミナー等の開催	98	5.6%	
デジタル・デバйд解消策	130	7.4%	
AI(生成AIを含む)の活用推進	87	5.0%	
その他	10	0.6%	
無回答	1	0.1%	
計		1,748	



問 6 問1～5のご回答に関するご提案や、デジタル化・DXの課題・問題点に関するご意見・ご要望などがございましたら、お聞かせください。

(一部抜粋)

【DXに期待する主な意見】

- 行政手続きのデジタル化は早急に取り組むべきと考えています。今後人口が減少し、人手不足が加速することを考えると、保育や介護などで忙しい現役世代が自宅や勤務先から、24時間いつでも手続きを行えるような環境整備は必須だと思います。
- 農業従事者の高齢化や人口減少が進む中、デジタル化やDXの推進は農業の持続的発展に欠かせないと考えます。初期投資やシステム導入に伴う負担を軽減するための補助金制度の拡充を強く望みます。デジタル化を通じて、農業を次世代に引き継ぐ基盤づくりを進めてほしいと思います。

【デジタル・デバйдに関する主な意見】

- デジタル・デバйдで取り残される側になりそうで不安。年齢に紐づけて格差が指摘されることが多いように感じているが、「学校での授業や大企業(都市圏)への通勤を通して新しい技術と情報に触れられる層」と「従来型の地元中小企業や家庭内で過ごすことが多い層」との格差にもスポットをあてて、格差解消のために情報や体験機会の提供をしてほしい。
- 行政が主軸となって高齢者やデジタル機器の利用に馴染みがない人に対して、研修会などの機会があれば良いと思います。

【アナログの必要性に関する主な意見】

- なんでもかんでもデジタルに依存するのではなく、人の手が必要なアナログな面も大切にすべきだと思います。両者の長所を生かして共存していけば、今後より良い社会やコミュニティが形成されていくでしょう。
- 災害時にはデジタル化があだとなる。アナログも残していないと、いざというときに対応できないので、災害時の対策が必要である。

【AIの活用に関する主な意見】

- AIで作成したものはファクトチェックを厳しくすることを徹底しないといけないと思う。また、技術を使える人材をしっかりと確保することを前提としないと、易々と取り入れることには不安がある。
- 生成AIを活用しルーチンワークの効率化により行政を効率化・スピーディーにできるところはする一方で高い対人スキルが必要な職種はAIによる効率化は今の技術では向かないと思う。

家庭教育に関するアンケート調査結果

県民生活課

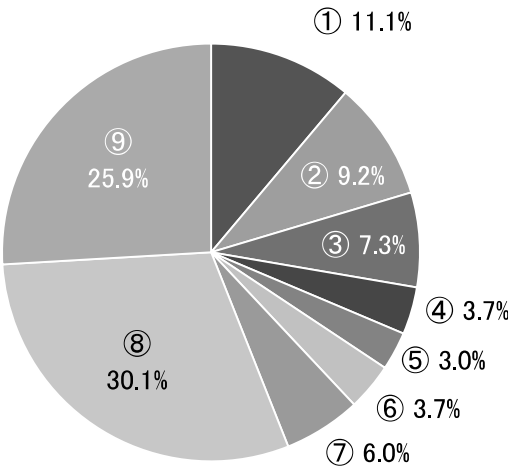
1 調査目的

今後の家庭教育支援施策に活用するため、家庭教育に対する県民の意識や現状について、御意見を伺いました。

2 調査結果

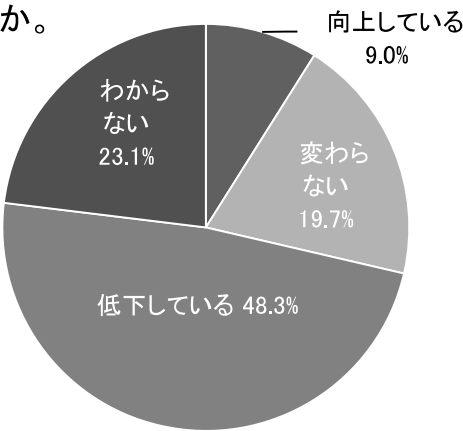
問1 子育ての経験の現在の状況について教えてください。

	人数	割合
① 末子0～2歳を子育てしている	82	11.1%
② 末子3～小学生未満を子育てしている	68	9.2%
③ 末子小学校 1年～3年を子育てしている	54	7.3%
④ 末子小学校 4年～6年を子育てしている	27	3.7%
⑤ 末子中学生を子育てしている	22	3.0%
⑥ 末子高校生／高専生を子育てしている	27	3.7%
⑦ 末子大学生／社会人を子育てしている	44	6.0%
⑧ 過去に子育て経験がある(現在は子育てしていない)	222	30.1%
⑨ 子育て経験はない	191	25.9%
計	737	100.0%

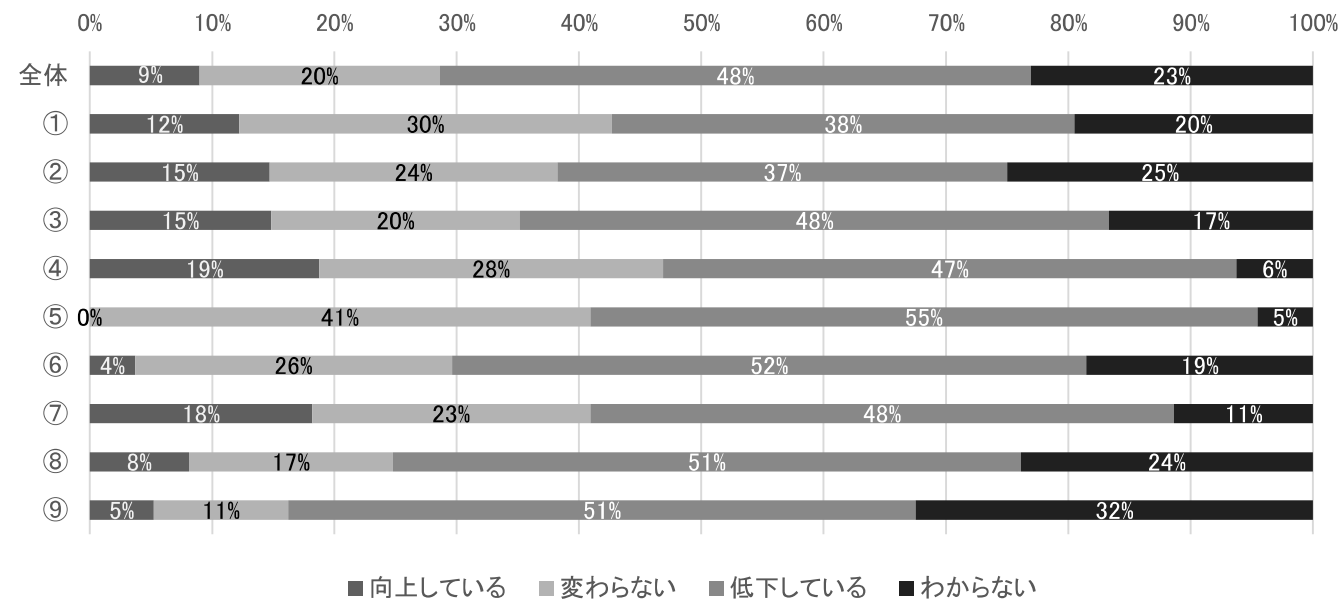


問2 近年、「家庭の教育力」がどう変化していると思いますか。

	人数	割合
向上している	66	9.0%
変わらない	145	19.7%
低下している	356	48.3%
わからない	170	23.1%
計	737	100.0%

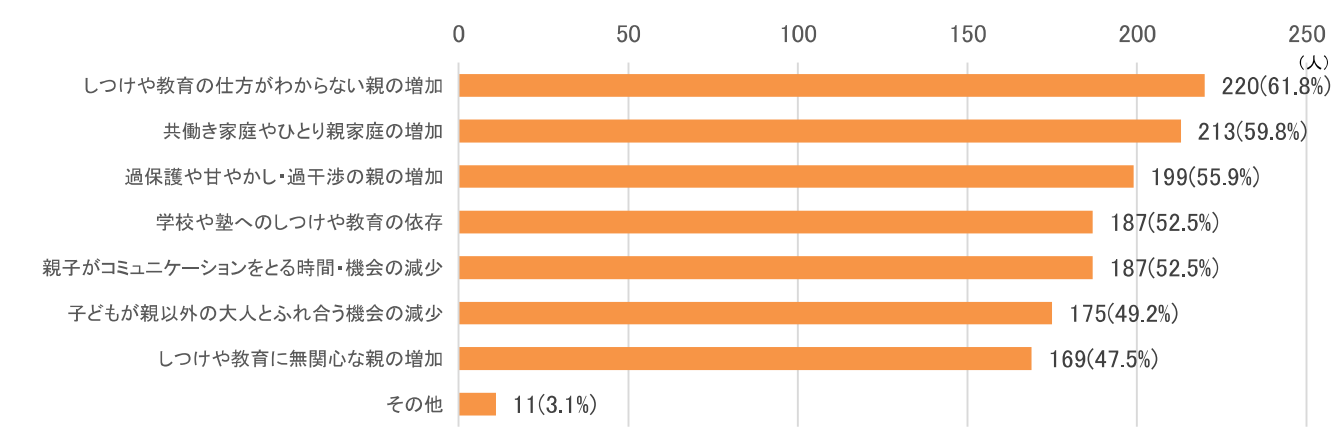


子育て経験の現在の状況別



問3 （問2で「低下している」と答えた方）
「家庭の教育力」が低下していると思う理由。（複数回答） 回答者 356 人

	回答数	割合
しつけや教育の仕方がわからない親の増加	220	61.8%
共働き家庭やひとり親家庭の増加	213	59.8%
過保護や甘やかし・過干渉の親の増加	199	55.9%
学校や塾へのしつけや教育の依存	187	52.5%
親子がコミュニケーションをとる時間・機会の減少	187	52.5%
子どもが親以外の大人とふれ合う機会の減少	175	49.2%
しつけや教育に無関心な親の増加	169	47.5%
その他	11	3.1%
計	1,361	－



「その他」のうち主なもの

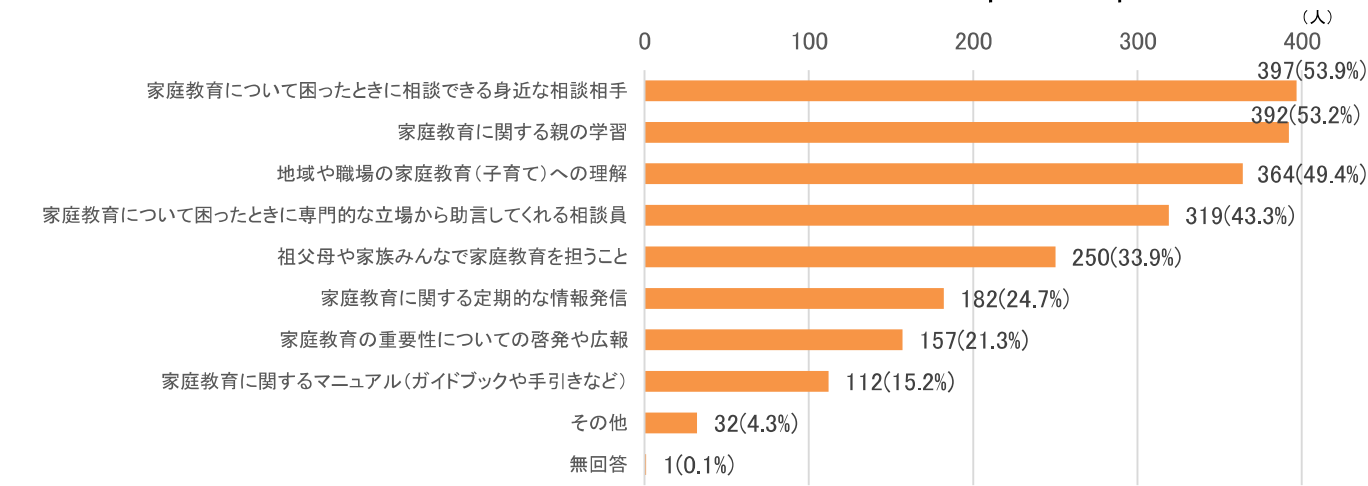
- ・ 子どもが祖父や祖母とふれ合う機会の減少
- ・ 悪いことをしても見て見ぬふりをするなど、他人の子を叱ることができない
- ・ 多様性やコンプライアンスの過度な重視によるしつけや教育の縛り

子育て経験の現在の状況別 「家庭の教育力」が低下していると思う理由の最上位

子育て経験の現在の状況	「家庭の教育力」が低下していると思う理由の最上位
末子0～2歳を子育てしている	共働き家庭やひとり親家庭の増加
末子3～小学生未満を子育てしている	共働き家庭やひとり親家庭の増加
末子小学校 1年～3年を子育てしている	共働き家庭やひとり親家庭の増加
末子小学校 4年～6年を子育てしている	過保護や甘やかし・過干渉の親の増加
末子中学生を子育てしている	過保護や甘やかし・過干渉の親の増加
末子高校生／高専生を子育てしている	学校や塾へのしつけや教育の依存／親子がコミュニケーションをとる時間・機会の減少
末子大学生／社会人を子育てしている	しつや教育の仕方がわからない親の増加／子どもが親以外の大人とふれ合う機会の減少
過去に子育て経験がある(現在は子育てしていない)	しつや教育の仕方がわからない親の増加
子育て経験はない	しつや教育の仕方がわからない親の増加／過保護や甘やかし・過干渉の親の増加

問4 「家庭の教育力」を向上させるために必要なこと。
(複数回答) 回答者 737 人

	回答数	割合
家庭教育について困ったときに相談できる身近な相談相手	397	53.9%
家庭教育に関する親の学習	392	53.2%
地域や職場の家庭教育(子育て)への理解	364	49.4%
家庭教育について困ったときに専門的な立場から助言してくれる相談員	319	43.3%
祖父母や家族みんなで家庭教育を担うこと	250	33.9%
家庭教育に関する定期的な情報発信	182	24.7%
家庭教育の重要性についての啓発や広報	157	21.3%
家庭教育に関するマニュアル(ガイドブックや手引きなど)	112	15.2%
その他	32	4.3%
無回答	1	0.1%
計	2,206	—



「その他」のうち主なもの

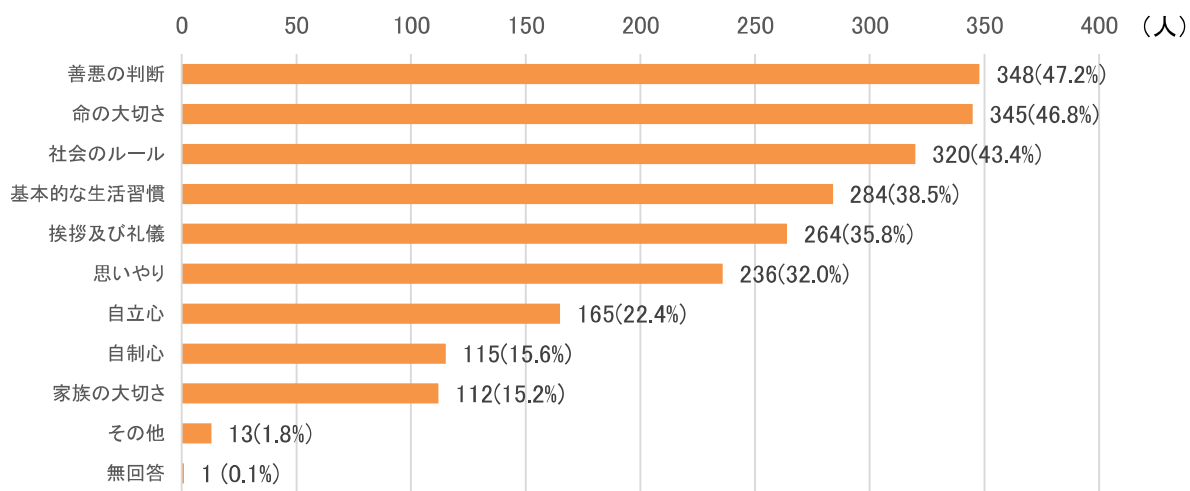
- ・ 家庭教育を行う親自身のゆとり、時間的余裕
- ・ 親子の時間の確保
- ・ 理解だけでなく、地域全体で協力して子育てをしようとする意識や環境

子育て経験の現在の状況別 「家庭の教育力」を向上させるために必要なことの最上位

子育て経験の現在の状況	「家庭の教育力」を向上させるために必要なことの最上位
末子0～2歳を子育てしている	家庭教育に関する親の学習
末子3～小学生未満を子育てしている	家庭教育に関する親の学習／地域や職場の家庭教育(子育て)への理解
末子小学校 1年～3年を子育てしている	地域や職場の家庭教育(子育て)への理解
末子小学校 4年～6年を子育てしている	家庭教育に関する親の学習／家庭教育について困ったときに相談できる 身近な相談相手／地域や職場の家庭教育(子育て)への理解
末子中学生を子育てしている	家庭教育に関する親の学習
末子高校生／高専生を子育てしている	地域や職場の家庭教育(子育て)への理解
末子大学生／社会人を子育てしている	家庭教育に関する親の学習
過去に子育て経験がある(現在は子育てしていない)	家庭教育について困ったときに相談できる身近な相談相手
子育て経験はない	家庭教育について困ったときに相談できる身近な相談相手

問5 保護者が学校や地域で家庭教育について学ぶ「家庭教育学級」で取り上げる
テーマとしてよいと思うもの。 (複数回答) 回答者 737 人

	回答数	割合
善悪の判断	348	47.2%
命の大切さ	345	46.8%
社会のルール	320	43.4%
基本的な生活習慣	284	38.5%
挨拶及び礼儀	264	35.8%
思いやり	236	32.0%
自立心	165	22.4%
自制心	115	15.6%
家族の大切さ	112	15.2%
その他	13	1.8%
無回答	1	0.1%
	2,203	－



「その他」のうち主なもの

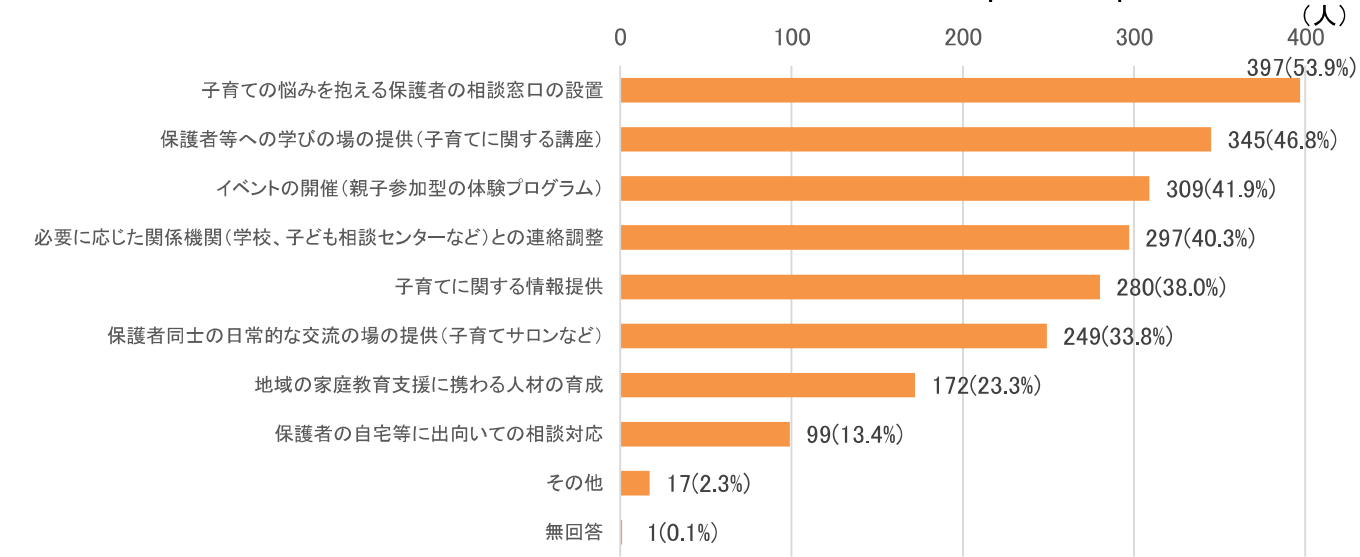
- 世の中のお金のしくみ、投資・貯蓄に関する学び
- 子どもへの関わり方(褒める、指導、叱る)
- 性教育に関する正しい知識
- SNSの使い方
- 障がい者理解

子育て経験の現在の状況別「家庭教育学級」で取り上げるとよいと思うテーマの最上位

子育て経験の現在の状況	「家庭教育学級」で取り上げるとよいと思うテーマの最上位
末子0～2歳を子育てしている	善悪の判断
末子3～小学生未満を子育てしている	社会のルール
末子小学校 1年～3年を子育てしている	基本的な生活習慣/命の大切さ
末子小学校 4年～6年を子育てしている	命の大切さ
末子中学生を子育てしている	命の大切さ
末子高校生／高専生を子育てしている	命の大切さ/社会のルール
末子大学生／社会人を子育てしている	命の大切さ
過去に子育て経験がある(現在は子育てしていない)	命の大切さ
子育て経験はない	善悪の判断

問6 身近な地域で子育てや家庭教育に関する支援を行う「家庭教育支援チーム」に取り組んでももらいたいこと。 (複数回答) 回答者 737 人

	回答数	割合
子育ての悩みを抱える保護者の相談窓口の設置	397	53.9%
保護者等への学びの場の提供(子育てに関する講座)	345	46.8%
イベントの開催(親子参加型の体験プログラム)	309	41.9%
必要に応じた関係機関(学校、子ども相談センターなど)との連絡調整	297	40.3%
子育てに関する情報提供	280	38.0%
保護者同士の日常的な交流の場の提供(子育てサロンなど)	249	33.8%
地域の家庭教育支援に携わる人材の育成	172	23.3%
保護者の自宅等に出向いての相談対応	99	13.4%
その他	17	2.3%
無回答	1	0.1%
	2166	-



「その他」のうち主なもの

- 行政の福祉サービスを利用していない方への情報提供や橋渡し
- 子ども・親・高齢者が世代を超えて集い、思いやりを育てる交流の場
- 地域の高齢者やデイサービスなどの福祉施設と提携した取組
- 小さい子だけではなく、中高生、未成年の若者を対象とした福祉施設訪問や点字器の体験等の活動や情報発信
- インターネットによる子育て経験談などの情報提供
- 仲間づくりができるよう、定期開催や登録制の親子参加型イベントの開催

子育て経験の現在の状況別 家庭教育支援チームに取り組んでももらいたいことの最上位

子育て経験の現在の状況	家庭教育支援チームに取り組んでももらいたいことの最上位
末子0～2歳を子育てしている	保護者等への学びの場の提供(子育てに関する講座)
末子3～小学生未満を子育てしている	イベントの開催(親子参加型の体験プログラム)
末子小学校 1年～3年を子育てしている	イベントの開催(親子参加型の体験プログラム)
末子小学校 4年～6年を子育てしている	子育てに関する情報提供
末子中学生を子育てしている	子育てに関する情報提供/子育ての悩みを抱える保護者の相談窓口の設置
末子高校生／高専生を子育てしている	子育てに関する情報提供
末子大学生／社会人を子育てしている	子育ての悩みを抱える保護者の相談窓口の設置
過去に子育て経験がある(現在は子育てしていない)	子育ての悩みを抱える保護者の相談窓口の設置
子育て経験はない	子育ての悩みを抱える保護者の相談窓口の設置

自転車の安全利用に関するアンケート調査結果

県民生活課

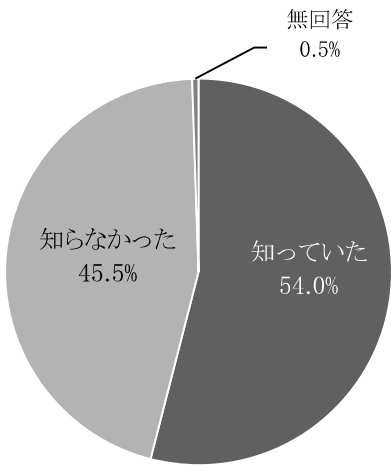
1 調査目的

令和4年4月より、「岐阜県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が施行されました。そこで、今後の施策の参考とするため、アンケート調査を実施しました。

2 調査結果

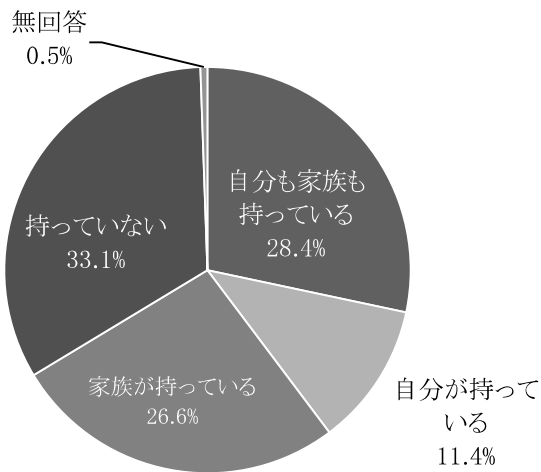
問1 あなたは、岐阜県で「自転車条例」が制定されていることをご存知でしたか。

	人数	割合
知っていた	398	54.0%
知らなかった	335	45.5%
無回答	4	0.5%
計	737	100.0%



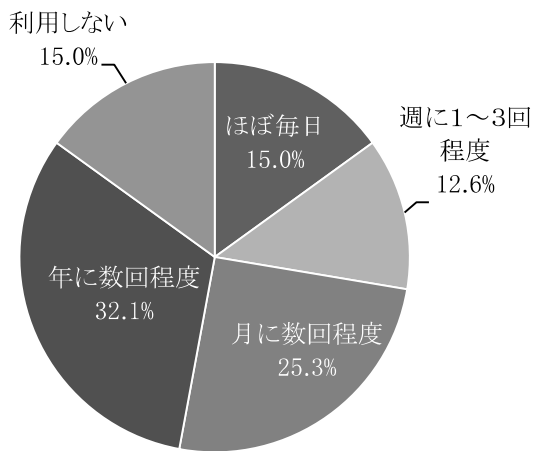
問2 あなたは、自転車を持っていますか。また、同居の家族(いる場合)は自転車を持っていますか。

	人数	割合
自分も家族も持っている	209	28.4%
自分が持っている	84	11.4%
家族が持っている	196	26.6%
持っていない	244	33.1%
無回答	4	0.5%
計	737	100.0%



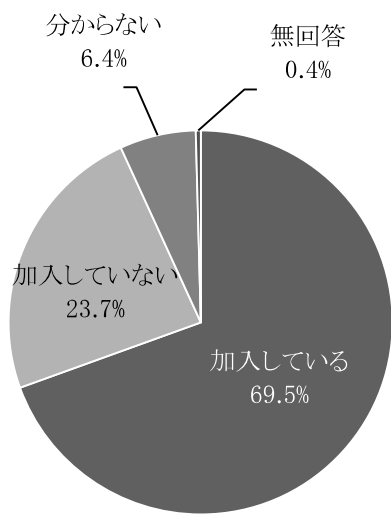
問3-1 (問2で自分が自転車を持っていると答えた方のみ)
あなたは、普段どれぐらい自転車を利用しますか。

	人数	割合
ほぼ毎日	44	15.0%
週に1～3回程度	37	12.6%
月に数回程度	74	25.3%
年に数回程度	94	32.1%
利用しない	44	15.0%
計	293	100.0%



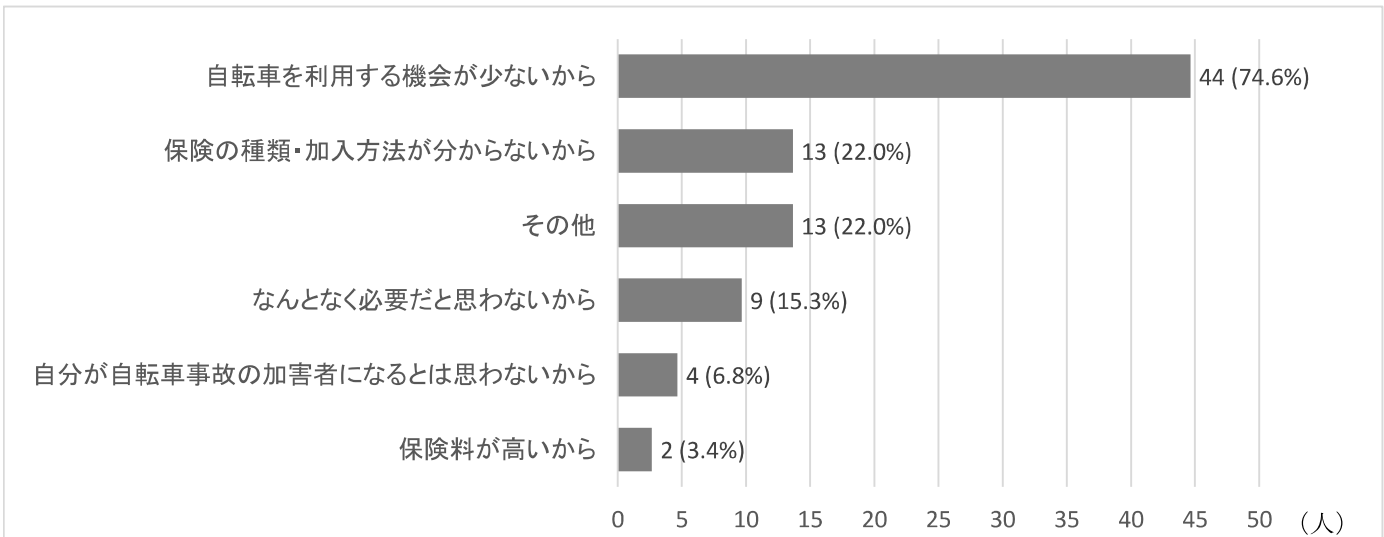
問3-2 （問3-1で、頻度を問わず普段自転車を利用すると答えた方のみ）
あなたは、自転車事故を補償する保険に加入していますか。

	人数	割合
加入している	173	69.5%
加入していない	59	23.7%
分からない	16	6.4%
無回答	1	0.4%
計	249	100.0%



問3-3 （問3-2で、加入していないと答えた方のみ）
保険に加入していない理由は何ですか。 （複数回答）回答者59人

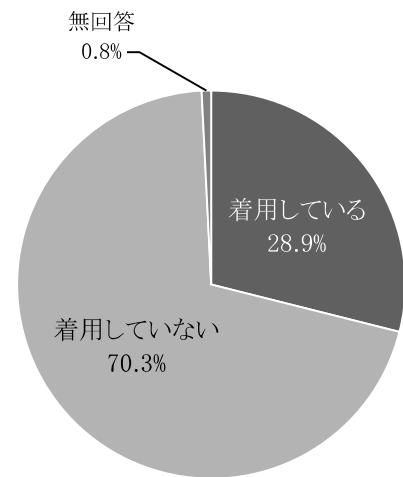
	回答数	割合
自転車を利用する機会が少ないから	44	74.6%
保険の種類・加入方法が分からないから	13	22.0%
その他	13	22.0%
なんとなく必要だと思わないから	9	15.3%
自分が自転車事故の加害者になるとは思わないから	4	6.8%
保険料が高いから	2	3.4%
計	85	-



- 「その他」のうち主なもの
- ・加入しなくてはいけないことを知らなかった。
 - ・自転車にもそのような保険があることを知らなかった。

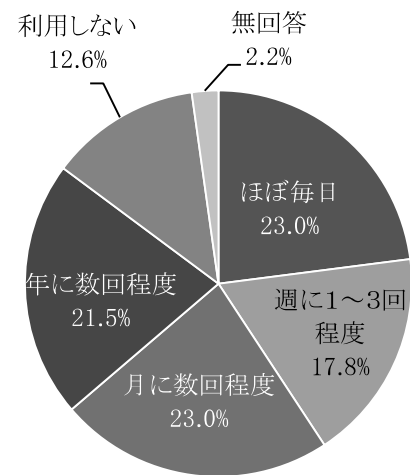
問3-4 （問3-1で、頻度を問わず普段自転車を利用すると答えた方のみ）
 あなたは、自転車を利用するとき、ヘルメットを着用していますか。

	人数	割合
着用している	72	28.9%
着用していない	175	70.3%
無回答	2	0.8%
計	249	100.0%



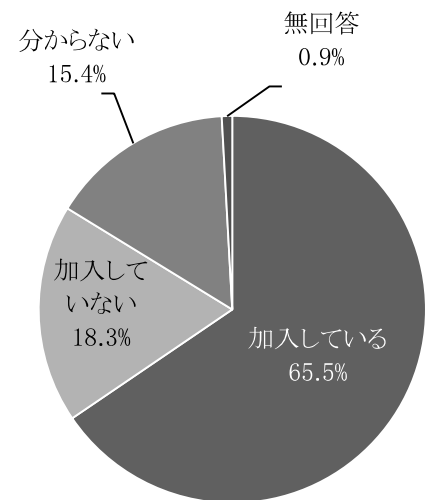
問4-1 （問2で、家族が持っていると答えた方のみ）
 あなたの家族は、普段どれくらい自転車を利用しますか。

	人数	割合
ほぼ毎日	93	23.0%
週に1～3回程度	72	17.8%
月に数回程度	93	23.0%
年に数回程度	87	21.5%
利用しない	51	12.6%
無回答	9	2.2%
計	405	100.0%



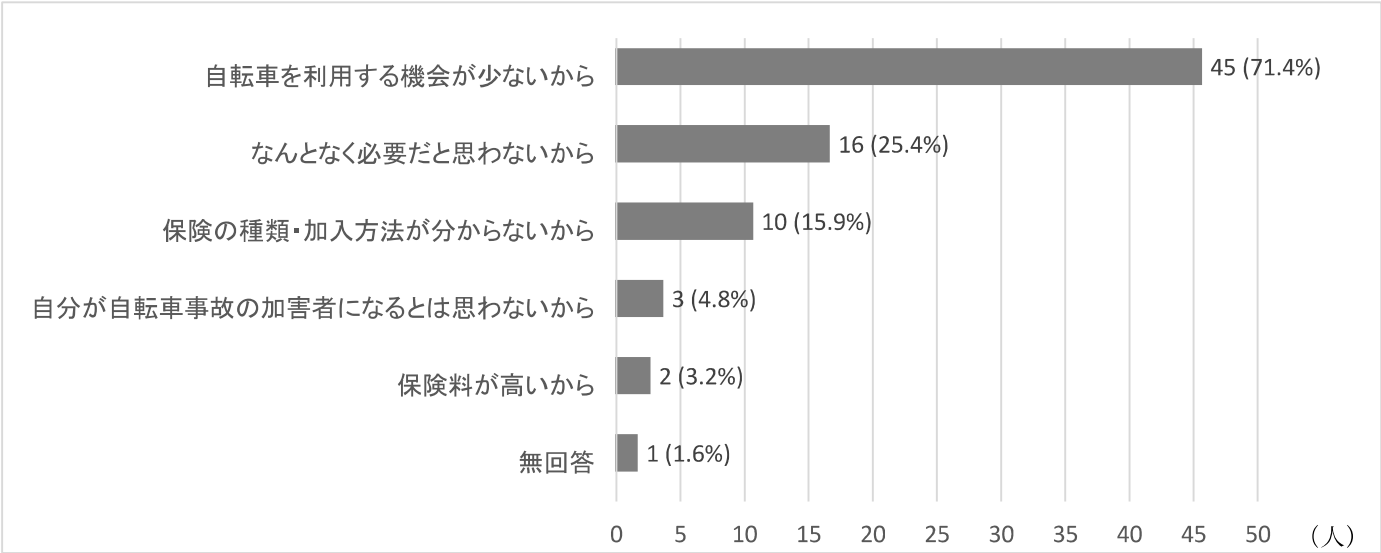
問4-2 （問4-1で、頻度を問わず普段家族が自転車を利用すると答えた方のみ）
 あなたの家族は、自転車保険に加入していますか。

	人数	割合
加入している	226	65.5%
加入していない	63	18.3%
分からない	53	15.4%
無回答	3	0.9%
計	345	100.0%



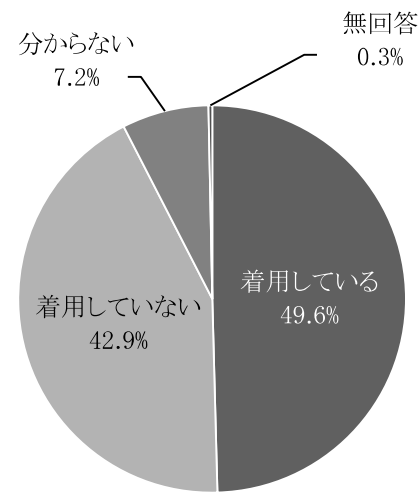
問4-3 （問4-2で、加入していないと答えた方のみ）
 保険に加入していない理由は何ですか。 （複数回答）回答者63人

	回答数	割合
自転車を利用する機会が少ないから	45	71.4%
なんとなく必要だと思わないから	16	25.4%
保険の種類・加入方法が分からないから	10	15.9%
自分が自転車事故の加害者になるとは思わないから	3	4.8%
保険料が高いから	2	3.2%
無回答	1	1.6%
計	77	-



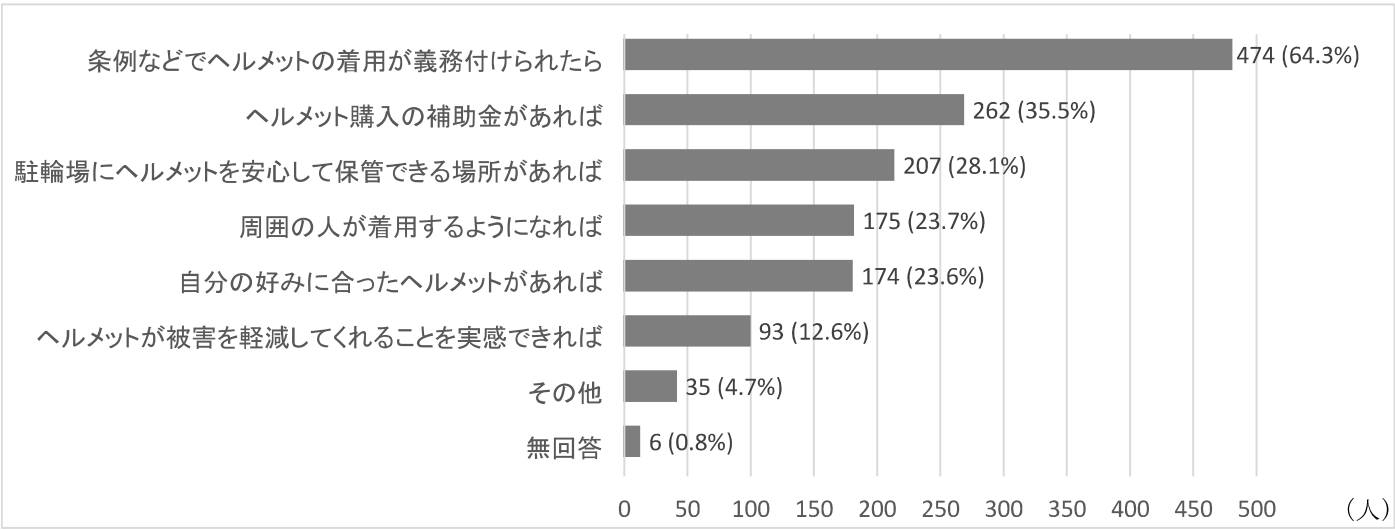
問4-4 （問4-1で、頻度を問わず普段家族が自転車を利用すると答えた方のみ）
 あなたの家族は、自転車を利用する時、ヘルメットを着用していますか。

	人数	割合
着用している	171	49.6%
着用していない	148	42.9%
分からない	25	7.2%
無回答	1	0.3%
計	345	100.0%



問5 今後、どのような条件があれば、普段からヘルメットを着用しようと思いますか。
(複数回答)回答者737人

	回答数	割合
条例などでヘルメットの着用が義務付けられたら	474	64.3%
ヘルメット購入の補助金があれば	262	35.5%
駐輪場にヘルメットを安心して保管できる場所があれば	207	28.1%
周囲の人が着用するようになれば	175	23.7%
自分の好みに合ったヘルメットがあれば	174	23.6%
ヘルメットが被害を軽減してくれることを実感できれば	93	12.6%
その他	35	4.7%
無回答	6	0.8%
計	1,426	-



- 「その他」のうち主なもの
- ・髪型がくずれないものがあれば。
 - ・ヘルメット自体が高すぎるので、県や市などで販売して欲しい。
 - ・校則で義務付けられれば。
 - ・罰金が科されたら。
 - ・条例ではなく法律で義務付けられたら。

問6 交通反則通告制度(青切符)が導入されることをご存知でしたか。

	人数	割合
知っていた	541	73.4%
知らなかった	191	25.9%
無回答	5	0.7%
計	737	100.0%

